

令和3年度第1回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

1 期 間 令和3年5月24日（月）～6月11日（金）

2 場 所 書面会議

3 出席者 委 員 岩田委員、小俣委員、室星委員、小林委員、山田委員、渡邊委員、
原委員、田川委員
事務局 環境政策課長、環境保全係長、主事1名

4 公開の可否 公開 一部公開 非公開

5 議 題

- ① 座間市地下水総合調査事業委託 令和3年度業務計画について
- ② 地下水位常時観測システム使用機器の修繕について

6 資 料

- ① 令和3年度第1回地下水保全連絡協議会 資料 ー令和3年度業務計画ー
- ② 座間市地下水保全基本計画の中間見直しについて
- ③ 地下水位常時観測システム使用機器の修繕について（変更）

7 参考資料

別紙① 地下水位常時観測システム使用機器の修繕について

（令和2年度第1回協議会資料）

8 協議会意見等

	意見等	対応
副会長	ここからの業務が重要だと思いますので、よろしくお願いします。	引き続き検討を行います。
委員	①P32、年間地下水採取量が2012年と2014年に減少した要因、2017年に増加した要因は何ですか。	2012年の減少理由については、2011年12月から2013年6月まで第3水源の耐震工事中で採水が出来なかったため。 2014年の減少理由については、2014年1月から2014年10月まで第1水源の耐震工事中で採水が出来なかったため。 2017年の増加については、明確な理由はありませんが、2017年1月の寒波で、配水池の凍結による漏水が多発し、配水量が減少したため、配水池の水位を保つために採水量が増加したものと思われます。
	②本シミュレーションに、自然災害・防災情報としての河川の氾濫情報が得られるように加味されているのでしょうか。	本モデルは、地下水の保全を目的に構築したものであるため、河川の氾濫情報などを加味することはできません。 河川の氾濫情報などを加味する場合は、別途氾濫モデルの構築が必要となります。
委員	GETFLOWSによるモデルの更新が令和2年度までに実施されて現況再現が概ね良好な結果が得られるようになったため、大規模工事や天候の長期予報に対する対策を市民に説明することが科学的に出来るようになったと思います。	シナリオ解析のとおり、様々なリスクに対して、予測を行えたと考えています。
	現状、揚水量は地下水賦存量に対して余裕がある状態ですが、揚水量の総量に対して水道の占める割合が大きく、地下水管理の際に、市民への節水の呼びかけや、取水制限などを段階的に実施する取り決めをしてはどうでしょうか。	市民への節水の呼びかけ等については、現状では行っておりませんが、今後は上下水道局とも相談の上、検討していきたいと思います。 また、取水制限については、座間市の地下水を保全する条例施行規則第11条により地下水採取事業者に対して取水基準を設けており、市水道事業者に対しては日量最大45,330m ³ の基準を設けております。
	地下水揚水量は2012～2014年で大きく減少していますが、明確な要因があったのでしょうか。	2012年の減少理由については、2011年12月から2013年6月まで第3水源の耐震工事中で採水が出来なかったため。 2014年の減少理由については、2014年1月から2014年10月まで第1水源の耐震工事中で採水が出来なかったためです。
委員	現在、座間市水道事業は市内8箇所の水源井で取水する地下水によって全体配水量の約85%をまかなっているため、適正な取水量及び水位の検討と地下水管理指標の設定のために過去データの提供等のご協力をいたします。	本年度、これまで取得したデータの解析と水循環モデルの活用により、適正な取水量及び水位の検討と地下水管理指標の設定を行ってまいります。